



橋 綾 夫

## 環境を考えて 「協働」のまちづくりを

一 般

質

問

**質問**  
町長のイメージする「一流の田舎町」とは具体的にどんな町なのか？

**町長答弁**  
新幹線、高速道路、ほくほく線の利便性に加え多数あるホテル等の設備、魚の川、清津川流域の自然環境、三国街道や小説「雪国」の歴史文化、これらを最大限利用して町づくりを行い、自分本位でない町民が仲良く暮らしている町を「一流の田舎町」と私は思う。

**質問**  
これから町民が町づくりを考えていく中で、里山や小川の再生、生活圏の緑化等々が提案されて来る事が考えられますが、今年度中に策定予定の「環境基本

計画」に環境保全だけでなく失われた環境の再生を少しでも織り込めないでしうか。

**町長答弁**  
環境基本計画にそった環境保全の施策を推し進めることにより、結果として再生修復もされることと考えられる事から、環境の再生という概念も包含されているものと思う。また「湯沢町環境審議会」の意見を踏まえながらそういった視点も取り入れて行きたいと思えます。

**質問**  
県や砂防事務所に、砂防堰堤など砂防施設の整備促進を要望するところがあるが、「湯沢町環境基本条例」に自然環境の保全、生物の生態系の保護そして自然との調和

に最大限の配慮をうたっているが、整合性をどう計るのかお聞かせ下さい。

**町長答弁**  
豊かな自然は様々な恩恵をもたらしてくれる反面、時には自然災害という形で牙をむく事があり、生活環境を守る為の施策を実施することが行政の重要な役割です。国や県も同様に環境保護の指針を定めており、湯沢砂防も十分環境に配慮した整備がなされるものと思っておりますが、町としても湯沢砂防や県に要望、説明をした中で実施して頂きたいと思っております。

**質問**  
今町民がかつてない程町づくりが積極的になって新しいコミュニケーションを作り、町づくりを進めていく上で

「協働」というのが重要なポイントだと思いますが、今後まちづくりを推進していく為に町や役場職員がどう参画していくのか具体的に教えて下さい。

**町長答弁**  
職員も一町民であり身近な地域、町内会活動等へ積極的に参加すると共に湯沢町の現状に即した知識を習得してもらい資質の向上を図り、率先して町づくりに参加できる職員を育成したいと考えています。また町の現状理解の為に内部勉強会をし、広い分野で職員と町民が会話をすることで、それぞれ問題意識を共有する中で議論に発展し、協働の町づくりに参画する環境が整備されるものと思えます。

**質問**  
平成12年12月25日締結の「ガール湯沢スキー場管理運営協定書」第6条の中に、「スキーパック及び共通リフト券の発行については甲（湯沢町）乙（ガール湯沢）丙（JR東日本）別途協議するものとする」とあるがガール

ラが今期、往復新幹線代十スキー場代十レンタル20%OFFを¥6,700で販売していましたが、事前の協議はあったのか教えていただきたい。

**町長答弁**  
これは隣接スキー場との連携という観点で「スキーパック及び共通リフト券の発行について別途協議する」となっており、ガールスキー場が単独で発売するスキー企画商品については対象外と認識しておりますので、協議は行っておりません。

